

オンリー白岩 をめぐして

白岩城址燈火祭は今年で16回目を迎え、今では地元
の冬祭りとして定着し、市内外から多くの方々が訪
れるようになりました。白岩地区で村おこし団体を
15年前に立ち上げた下田三千雄さんは長年務めた
代表を昨年末で退任。地元白岩に対する熱い思い、
これまでの歩みなどについてお話をいただきました。

Michio Shimoda



白岩村おこしプロジェクトS前代表
下田 三千雄 さん (64歳 角館町白岩字前郷)

白岩にキセキを起こす

私は男兄弟の三男坊ですが、家業の商店を
営んでいました。仕事一筋で土日もなく働い
ていましたが、49歳の時、大病を患い、生死
の境をさまよいました。仕事に復帰してから、
自分の生まれ育った白岩を見るようになりま
した。そして愕然としました。このままでは
白岩がなくなる。「なんとかしなはれ！」。

地域ブランドに魅せられて

地域の活性化を目的に「白岩村おこしプロ
ジェクトS」を平成14年に立ち上げました。以
来、様々な行事の企画・立案を行い、同時に
プロモーションも行ってきました。白岩は街
道や古い寺院があったり、白岩焼きやささら
舞など伝統文化が色濃く残っています。「誰か
が何かやらねば」という強い思いは持ってい
て、私の考えに賛同する10人で始めました。
最初に思いついたのは、冬を楽しむ行事がな
いということ。白岩城址燈火祭はそこから生
まれました。軌道に乗れたのは、周りの環境
や人に恵まれていたからだと思えます。地元
の方々の協力はもちろん、後に定着する国際
教養大学の留学生との交流も少しずつ進み、
ホームステイも手探りでしたが、回数を重ね
るうちに、まるで小さな国際村のように形に
なっていました。自分で思い描いた構想が

実現できる喜びは何にも代えがたいものでし
た。私は常に「オンリー白岩」を目指したい。
ベースにその考えがいつもあります。過疎化
が進み限界集落となり、活気が失われていく
地域はたくさんありますが、白岩には後世に
伝えるべくすばらしい地域資源や財産があっ
たことも、地域おこしにつながったと思いま
す。平成21年には、住民一体の取り組みが高
く評価され、秋田県農山村活力モデル地域に
も指定されました。

やってみないとわからない

後進に道を譲る時期と考え、今年から代表
を退きました。これからは裏方として全面的
にバックアップしていきます。こうして、世
交代を図り、できるだけ若い方々を主役に
立てたいと思います。常に新しいものを取り
入れ、変化していかなければ停滞します。そ
れを動かす原動力、人が必要です。自分もそ
うしてきましたが、燈火祭やひでこ(シオゴ
栽培、昨年18年ぶりに復活した白岩大名行列
の開催など、地域資源を最大限に活用して白
岩を面白く、元気づけていきたいと思えます。
数年前にひでこの里のPRのために作った
2枚目のTシャツの前には「できるわけねえ
べしや」、後ろには「やってみればわからね
白岩」と書かれています。「アクションなく
して奇跡起こらず。奇跡なくして集落残らず」。
これからもその考えは変わらないでしょう。

天空の冬物語・中世と近世の栄華を光で再現

白岩城址燈火祭

2月4日、仙北市の冬まつりの先陣を切って、白岩城址
燈火祭が白岩地区の特設会場で行われました。

このお祭りは、中世白岩家城址の館山参道に、かがり火
が500個、近世平城跡に250個のミニかまくらなどが
設置され、幻想的な雰囲気を楽しむことができます。雲巖
寺の鐘の音を合図に、館山参道にかがり火が灯されると、
観客からは大きな歓声が上がります。カメラなどで撮影する光
景がみられました。主会場では、元氣白岩ひでこ節踊り大
会や火振りかまくら、綱引き大会などが行われ、地域住民
はもとより、多くの来場者で賑わいをみせました。



ひでこ節や生保内節などに合わせ、艶やかな手踊りが披露されました。



火振りかまくら体験など参加型のイベントが人気です。

地域の元気と活気を創り出す

白岩村おこしプロジェクトSに 感謝状を贈呈

白岩城址燈火祭が行われた会場では、白岩城
址燈火祭をはじめとする地域の活力向上と多く
の外国人の受け入れによる国際交流の推進に尽
力された功績を讃え、「白岩村おこしプロジェク
トS」に、仙北市から感謝状が贈呈されました。
白岩村おこしプロジェクトSは、人口減少によ
る過疎化や地域の停滞を打破する目的で前代表
の下田三千雄さんが結成した団体。これまで、
白岩城址燈火祭や山菜のひでこ栽培など、地域
資源を生かした取り組みや交流事業などを実施
してきました。感謝状を受け取った高橋輝彦代
表は「今後も白岩の活性化につながる取り組み
を続けたい。楽しい企画を考え、地域住民と協
力しながら活動していきたい」と話しました。



白岩城址燈火祭の開会式で門脇市長(左)から感謝状を受け取る白岩村おこしプロジェクトSの高橋輝彦代表(右)。